

令和8年度 岡山県立勝間田高等学校 学校経営計画書

I 校訓

<input type="checkbox"/> 質実剛健	安達清風先生の「有功学舎」建学の精神を継承
<input type="checkbox"/> 種徳共生	創立100周年記念に21世紀を切り拓く後輩へ、先輩から送られたメッセージ
<input type="checkbox"/> 至誠実行	平成17年4月引き継いだ、日本原高校の校訓

II 県が示す本校のスクールミッション

幅広い知識と教養を培い、多様な学習ニーズに応える学校として、一人一人の進路希望に対応するとともに、森林や自動車等の特色ある系列での学びの推進や、地域との連携により、専門的知識や技術・技能を活用する力を高める教育活動を通して、社会的・職業的に自立し、社会の発展に貢献する人材の育成を目指す。

III 学校教育目標（学校のミッション、使命・存在意義）

- 1 誠実・明朗で勤労精神にあふれ、真摯に努力する心身共に健全な人材を育成する。
- 2 自律心と責任感を持ち、他者との協働と創意工夫により社会の変化に対応し、地域産業（特に農林業・自動車関連産業・商業）に貢献する人材を育成する。
- 3 郷土の文化や自然を愛し、心豊かで生涯にわたり学び続ける姿勢をもった人材を育成する。

IV 学校内外の環境分析 「強み・弱み」

	内部環境	外部環境
強み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の存在 ○ 教職員の協働体制 ○ 多様な専門性を持つ教職員集団 ○ 教育施設・設備の充実 ○ 5つの専門系列（コース）設置 ○ 地元を支える人材の継続的な育成 ○ 専門機関(SSW・SC・警察等)との強い連携 ○ 問題行動・生徒指導件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勝央町・しょうおう志援協会との三者協定締結 ○ 地域からの積極的な支援 ○ ドリームファームを中心とした地域連携活動 ○ 勝央町内の中核工業団地の存在 ○ 地域と学校、人がつながるのにほどよい町環境 ○ 個に応じた指導支援のある学校としての認知 ○ 丁寧で面倒見が良い学校としての認知
弱み	<ul style="list-style-type: none"> □ 通学圏外からの志望者の受け入れ態勢 □ 本校志望者数の減少 □ 生徒数減による教職員の減員と多忙化 □ 要支援生徒への対応の増加 □ 学習に課題を抱える生徒の増加 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「問題行動の多い学校」という先入観の存在 □ 通学での公共交通機関の便数・時間帯などの不便さ □ 中学校卒業生数の減少 □ 岡山県高等学校教育研究協議会による県立高等学校再編整備の方向性 □ 私立学校学費負担低減による私立学校志望者の増加

V ミッションの追求を通じて、実現しようとする本校のビジョン（将来像・目指す姿）

- ◎ 地域や社会で活躍・貢献できる人材の育成
 - ① 他者と協働しながら課題に取り組み、解決に向けて努力できる生徒
 - ② 専門的な知識・技術を身に付け、実践・活用できる生徒
 - ③ 自らの未来を切り拓き、主体的に行動できる生徒

VI 本年度の重点目標と具体的な取組

～自立した生徒を育てるために～

- 1 学力向上
学力定着のための指導力向上 専門知識・技術の育成 1人1台端末を活用した学習活動の充実
- 2 生活習慣の確立
社会的・規範意識の醸成 挨拶の励行・言葉遣い等の指導 自己管理能力の育成
- 3 進路実現
キャリア教育の充実 学校生活(地域連携活動・部活動等の課外活動、資格取得等)の充実 系列に応じた特色ある活動の推進
- 4 開かれた学校
教育活動の見える化 三者協定に基づく地域連携活動の充実 HP・SNS等の効果的活用
- 5 業務効率化の推進と同僚性の醸成
学校組織・業務の整理及び統合 勤務状況の把握と業務の適正化 認め合い支え合う職場づくり

VII 生徒の声（R7.5.13 生徒総会より）

◎勝間田高校を一人ひとりが自立できる学校にする！